



南武線



鶴見線

※写真はイメージです 実際の製品仕様と異なる場合があります

72・73形南武線・鶴見線



◆実車ガイド

- ・72・73形は製造年により車体のデザインが異なり、1954年度以降に製造されたモハ72形500番代は屋根の高さが旧63形由来の車両より低くなり台車もDT17(後期グループはDT20)形に変更されました
- ・72・73形は1960年代以降首都圏近郊や地方線区に転用されましたがこれに伴う短編成化の際に不足する先頭電動車はモハ72形の改造でまかなわれ、旧63形由来のモハ72形改造車は近代化改造も合わせて実施の上でクモハ73-500形となり、モハ72-500形の改造車はクモハ73-600形となりました
- ・クモハ73-600形のうち偶数車はパンタグラフが後位側に存在していたのが特徴で、首都圏近郊路線で使用されました
- ・南武線では1960年代～1978年まで72・73形が使用され、当初はホーム長さの関係から川崎～稲城長沼は6両、稲城長沼～立川は4両での運用でしたが、1976年より全線で6両運転が行われるようになりました
- ・鶴見線の72・73形は1972年の導入時には旧63形由来の車両がほとんどでしたが、1978年に南武線からの同形転入で大半が近代化改造・アコモ改善車となり、1980年の大川支線を除く新性能化まで使用されました

【文責:トミーテック】

◆ここがポイント

POINT:1

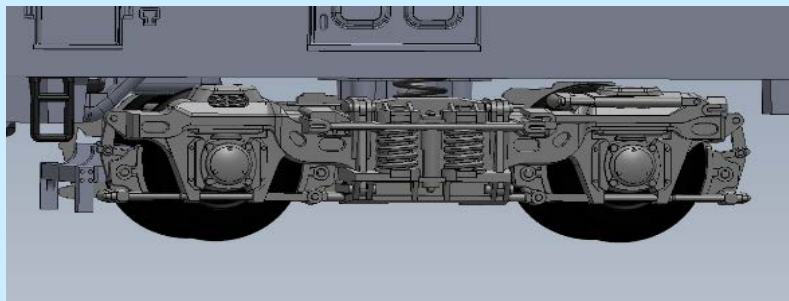
当初よりモハ72形として新製された500番代と、後年モハ72-500形を先頭車化改造して登場したクモハ73-600形のうちパンタグラフが後位側となった偶数車を新規製作で再現



モハ72-500



クモハ73-600



POINT:2

モハ72-500形・クモハ73-600形の台車はDT17形を新規製作で再現

各画像は試作、開発中のものです  
実際の製品とは異なる場合があります

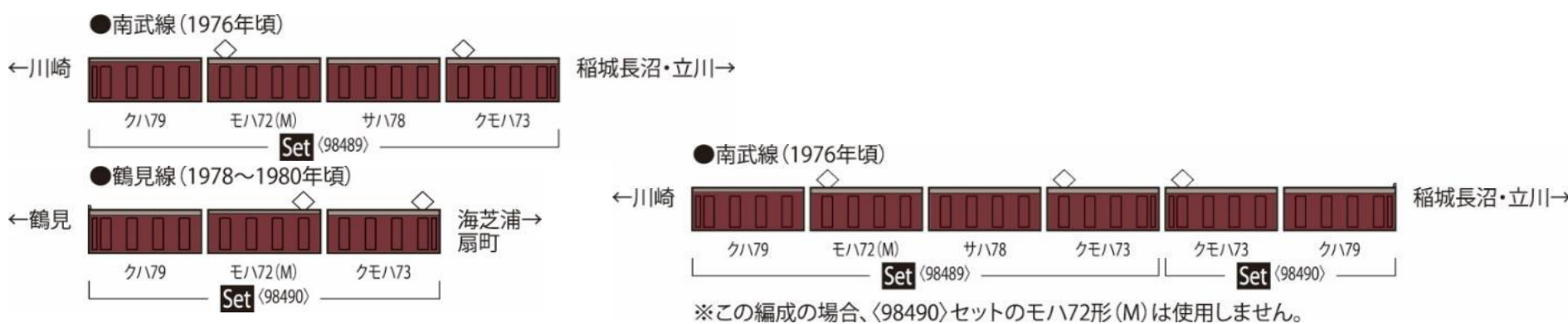
◆製品化特徴

- ＜共通＞
- ・ハイグレード(HG)仕様
- ・ベンチレーター・避雷器は取り付け済み
- ・ヘッド・テールライト、前面表示部は常点灯基板装備、ON-OFFスイッチ付
- ・ヘッド・テールライト、前面表示部は電球色LEDによる点灯
- ・配管付き密連形TNカプラー(SP)装備
- ・先頭車運転台側は胴受けの小さいTNカプラー装備
- ・Hゴムはグレーで再現
- ・<98489>南武線セットと<98490>鶴見線セットを組み合わせることで南武線で見られた4両+2両の6両編成を再現可能
- ・車番は選択式で転写シート付属
- ・フライホイール付動力、新集電システム、黒色車輪採用
- ・M-13モーター採用

＜98489＞について

- ・モハ72-500形、クモハ73-600形(偶数車)を新規製作で再現
- ・モハ72-500形、クモハ73-600形は窓がアルミサッシ化されたアコモ改善車を再現
- ・モハ72-500形、クモハ73-600形の台車はDT17形を新規製作で再現
- ・クハ79形は全金車、サハ78形は三段窓の残る車両を再現
- ・前面表示部はカラープリズムの採用で白色に近い色で点灯
- ・前面表示部、前面サボは印刷済みパーツ選択式で「立川・川崎・登戸・稲城長沼」付属
- ・前面サボは<98490>で増結車を再現する際などに使用可能
- ＜98490＞について
- ・近代化改造が施されたクモハ73形と全金車のモハ72-920形3段窓が残ったクハ79-300形の3両編成を再現
- ・クハ79-300形は前面窓が傾斜しヘッドライトが屋根上に装備されたグループを再現
- ・クモハ73形の前面表示部はカラープリズムの採用で白色に近い色で点灯
- ・前面サボは印刷済みパーツ選択式で「鶴見・扇町・鶴見・海芝浦」付属

■セット内容・編成例



＜別売りオプション＞  
室内灯:<0733>白色

●並べて楽しめる商品●



72・73形



タキ3000形(米タン)

品番	98489	品名	国鉄 72・73形通勤電車(南武線)セット	セット両数	4両
発売月	2022年11月	JANコード	4543736984894	予価	¥18,810 (税込)
原産地	日本	パッケージサイズ	218×304×34mm	パッケージ形態	ブック型プラケース
品番	98490	品名	国鉄 72・73形通勤電車(鶴見線)セット	セット両数	3両
発売月	2022年11月	JANコード	4543736984900	予価	¥15,840 (税込)
原産地	日本	パッケージサイズ	218×304×34mm	パッケージ形態	ブック型プラケース